

豊庄だより



第 665 号 2021 年 6 月 21 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

6 月は水無月（みなづき）とも呼ばれています。梅雨のシーズンなのに、なぜ「水がない月」と呼ばれるのか、この時期になるといつも疑問に感じています。そこにはこんな理由があります。水無月という呼び方は、日本が明治の初めころまで使っていた旧暦（太陰暦、陰暦）で使われていたもので、現在の暦（太陽暦）とでは、約 1 カ月時期がずれています（旧暦の 6 月は現在の 7 月から 8 月頃）。梅雨が明け、雨が降らなくなる時期のことを示しているのです。名前と意味が合わないのは当然です。

しかし、「水無月」を手元にある辞書（『明鏡国語辞典』大修館書店）で引いて驚きました。まず「陰暦 6 月の別称」とかかれています。ここまではいいのですが、次に「太陽暦の 6 月にもいう」とあり、「あれっ？」と思いました。これでは、現在使われている用法を認めていることとなります。さらに、「みなづき（水無月）」の「な」は、本来、「の」の意味を持つものであり、「水の月」となると書かれていました。6 月は、田んぼに水が入り、梅雨の時期なので雨も多く、「水の月」であることは確かなのですが、漢字の「無」の意味はどうなってしまったのか疑問が残りました。他の辞書も調べてみましたが、同様のことが書かれていました。辞書の解釈がいつからこのようになったのか、初めからそうだったのか知りませんが、すっきりしない気持ちだけが残りました。



和菓子水無月

こんな時は、あれこれ考えずに、和菓子屋さんへ出かけ、「水無月」を買って食べるに限ります。蒸し暑いこの時期、納涼の気持ちにさせてくれる和菓子「水無月」は、最高です。

梅雨の話題でもう一つ。このシーズンに欠かせない動物、カタツムリについて書きます。6 月誕生会でカ



タツムリについて話したいと思い、探しに行きました。保育園の周囲の植え込みから探し始めましたが、いません。原北小学校付近まで範囲を拡大。やはり、いません。「困った、いなかったらどうしよう」と不安な気持ちになりながら、小田部方面まで路地を歩き続けました。1 時間ほど歩いたでしょうか……。とうとう見つけました！鬱蒼（うっそう）と茂った藪の中に、葉っぱにしがみつくようにカタツムリがいました。帰り道ももう 1 匹くらいいるかもしれないと探しましたが、いませんでした。貴重な 1 匹でした。

6 月誕生会では、「♪でんでんむしむし かたつむり〜」と歌を歌いながらお話をしました。図書室の前に置いていますので、ご覧ください。確か、去年は 2 匹を飼育し、卵も生まれました。もし、カタツムリを発見されましたらお知らせください。それにしても、どこにでもいたと思っていたカタツムリ、こんなに見つけるのが困難になるとは想像できませんでした。ひょっとすると、カタツムリも絶滅危惧種の仲間入りするのでは……。そんなことも考えたカタツムリ君との出来事でした。